

第3回 伊豆市総合計画審議会議事録

- 開催日時 平成30年2月7日（水）午後7時～午後8時40分
- 開催場所 生きいきプラザ第1.2会議室
- 出席委員 遠藤護会長、植松真由美副会長、青木喜代司委員、浅田郁雄委員、浅田恵子委員、安藤孔治委員、飯田正志委員、梅原龍一委員、小森泰信委員、勝呂義衛委員、仙座夏子委員、田足井みさ子委員、出川奈央委員、永岡正人委員【14名】
- 欠席委員 渡邊一夫委員【1名】
- 伊豆市 本多副市長、西井教育長、田村市長政策監兼総合政策部長、伊郷総務部長、梅原市民部長、堀江産業部長、長谷川会計管理者、植田議会事務局長、金刺教育部長
原田こども課長
- 事務局 佐藤総合戦略課長、三浦主幹、杉山主査、渡邊主任、下村主任、浅田副主任

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議事

(1)改定案の最終確認について

- 1)総合計画改定案のスケジュールについて【資料1】
- 2)総合計画審議会意見及びパブリックコメント事前審査について【資料2-1・2-2・3・4】
- 3)総合計画改定案について【資料5】
- 4)総合計画改定に係る取組状況について【資料6】

(2)答申について

【議事(1)-1)、-2)に関する質問・意見等】

議事（1）－1）、－2）については、質問なし。

【議事(1)-3)、-4)に関する質問・意見等】

委員)

資料 6No.5 に太陽光発電施設のことが記載されているが、そのまま読めば、太陽光発電施設は制限しておきたいと思われるが、そういう方向で関連条例を策定することでよいか。

事務局)

県内でも田んぼの真ん中にメガソーラーがあると賛否両論がある。記載のとおり上手くないものは規制していくが、そこを含めて適正な立地や管理という言葉で最終的に策定委員会で整理をさせていただいた。現行の総合計画 P46 の景観の項目で、景観を踏まえて適正に管理していくべきだと言っており、片や P49 では地球温暖化の対策として再生可能エネルギーの利活用の推進の項目もある。風力や太陽光を含め、再生可能エネルギーの推進も、景観に配慮しながら、適正な立地や管理という言葉で整理して選ばせていただいた。

委員)

方向として規制したいということによろしいか。太陽光施設をつくることは省エネ等、大変有効と思うが、メガソーラーを積極的に導入して、伊豆市は省エネのまちという方向に進むということではないと考えてよいか。

事務局)

メガソーラーについては、土地利用や景観、生活環境の影響があるとされている。全てが悪いということではないが、適正な立地、管理があって初めて再生可能エネルギーの利用をしていくことが前提としている。よって一定のルールをもって伊豆市も条例の取組を進めようとしている。やはり再生可能エネルギーが持つものについては伊豆市も十分承知していることから、生活に影響を与えないようにするため、景観や土地利用という観点で進めていきたい。

委員)

伊豆の国市は自然エネルギーの推進のため、ソーラー発電を積極的に誘致してきた。北山や採石場、料金所左側にあるが、あれば景観上醜いものかという、そうは思わない。難しいかもしれないが、風景に見合ったカラーパネルを使用する等の景観条例もでき、バランスのとれたソーラーなら可能だと思う。

委員)

私は新しくチェックをしながら推進するのでもいいのではないかなと思う。皆が理解し、皆がよいと思った方向で進めていくための判断をしていくということによいのではないのでしょうか。

事務局)

メガソーラーが地域のみなさんにとってどういうものになるのかが重要である。例えば生活環境に影響を与えるような場所においては一定

のルールを決めていかなければならない。

- 委員) 規制をしようとするものではないということですか。
- 事務局) 一定の規制をもって適正に立地するということである。
- 委員) 今の段階でメガソーラーをつくるという話が伊豆市の中であるのか。
- 事務局) 一般的にメガソーラーというものの大きさがどれくらいのを指すのかは言いにくいですが、現時点で市の山間部を中心にそういったものを設置しているという事例は承知している。
- 委員) 景観をこれから総合計画の中で決めて進んでいけばよいと私は思っているが、景観を市の中でどういった形で管理をしていくのかを検討していただきたい。私が今思うのは色使いについてだが、中伊豆子ども園は非常に強い色を使っていると思う。今度東子ども園が新しくできる予定だが、中伊豆子ども園のような建物ができると非常に目立ってしまう。そういう部分も含めて、市の公共施設をつくる際に、景観に関して統一的な管理をしていただきたい。
- 委員) 資料 6No.23 の教育環境の創出のところで、義務教育の中で ICT 活用計画の策定とあるが、ICT の導入のことなのか具体的に教えてほしい。
- 事務局) 国でも、進学指導要領では、ICT 教育の推進としている。市の中では小中一貫校の土肥義務教育学校が新しくできる。その中に ICT に特化した取り組みということで、英語ルームの準備をしている。平成 30 年度には市の ICT 活用計画、学校教育における計画検討を行い、そのモデルとして先生や子供たちの様子を見ながら、その学校にも色々取り入れていきたいと考えているので、記述させていただいた。
- 委員) 放課後子ども教室について、これは小学校内に設置するということか。現在も、土肥支所の中には放課後児童クラブみたいなものがあって、放課後、子どもの面倒を見るというものがあるが、それと同じようなことを学校サイドが行うのか。
- 事務局) 土肥支所にある放課後児童クラブは新しくできる義務教育学校に移動する。プールがあったところの床を全部埋めて、その一角を放課後児童クラブとして活用する。放課後子ども教室は児童クラブと違い、規模は未定であるが、ボランティアにお願いして、放課後子どもたちの勉強の面倒を見るといった教室を開きたいと思っている。
- 委員) その教室の中で面倒を見ていただくのはボランティアの方ということか。
- 事務局) 元学校の先生で退職されて時間がある程度できるような方にお願いしたり、毎日なのか週 3 回行うか等、これから検討していく。
- 委員) 市がどちらの方向に向かって力強く動こうとしているのか読めない。

計画というのはそういうのがすごく重要であり、如何に内容があっても、市民が読み込めないと、なかなか計画は前には進まない。前回の文教ガーデンシティが頓挫したのも、そのあたりなのではないかと思う。前回頓挫した計画は、どこに問題があったのか、十分検証したのか、あるいは失敗を繰り返さないためにはどうしたら良いか、ということを考えなければならない。その辺の力強い意志と能力をもって、新しくできたこの計画を進めていただかないといけないのではないかと、強くお願いしたい。

委員) 中身を全部みて一番最初の鏡のところに伊豆市という名前が無ければ、殆ど全国で共通して使える内容だと思うが、最後の文面で地元の人が協力していくということがあり、ようやく人が関わってくるんだと感じている。行政が作るものは決して間違いではないし、網羅されているが、全部がかなりつまらないものになっていくという感じがする。最終的に実施する際に、行政が議会とタイアップして新しい伊豆市をつくっていくのかを期待するしかない。

委員) この冊子を一体誰に向けて作ったのか、伊豆市が今後どういう方向に向いているのかがわからない。立派な計画ができたので、是非10年後の暮らしを守ってもらいたいと思う。私の身近にも伊豆市を離れる方がいるが、本当に魅力が伝わらなければ、若い人たちはどんどん住みよい場所に移住してしまう。本当に本気になって伊豆市の今後をどうしていくのかを考えて進めていってもらいたい。あと中学校の件だが、お母さんたちの中では、中学校の人数が少なくなって困るといった意見も挙がっている。新中学校の方向性等わかりやすい形で公表していただきたい。

遠藤護会長) 今の中学校の人数が少ないという意味か？

委員) 今の人数のままで、中学まで通わせるには心配である。地元で中学校までは通わせたいと思っている親御さんはいるのだが。部活もそうだが、もう少し競争させたいという方もいる。今後どういう子育て環境を考えていくのか方向性だけでも、ある程度早く見せていただきたい。中学の件も、白紙になったというより今後の方向性を示していただきたい。

事務局) 教育振興審議会と同様の会合を行っているが、その委員さんたちが今年の3月に小学校単位で、市民のみなさん、保護者のみなさんに意見を聴く会を設ける。日程は広報伊豆などで周知する。そこで出された意見も参考にして、審議会の結論を出したいと考えている。

委員) 今日子ども子育て会議に参加したが、今年度伊豆市で生まれた子は

96 人しかいない。早急に対策を打たないと、加速度的に人口減少に陥る。やはり早急に行動しなければならない時期にきているのではないかと思う。

委員) 生まれてくる子や転出される方、自然になくなる方などを合併時から数字としてとらえ、グラフ化しているが、予想よりどんどん人が減少している。ここの自然が気に入ったということで来てくれる人もいるが、地元に住んでいるとなかなか伊豆市の良さがわからないので、入ってきてくれる人を応援できればと感じている。

本当に空き家がどうなっていくのか、若い女性の感覚では、今後伊豆市はどうなっていくのか心配していたが、市のほうで斬新なアイデアを出していただければと思っている。

委員) 資料 6No3 について、土肥のイメージ色、印象が強いので、今後は旧修善寺や中伊豆、天城でもこういうことをしていくというのを書いたほうがいいのではないかと思う。

人口減少について、人口流出を止めるのは並大抵のことではない。私たちの世代でもできることはあるのではないかと思うので、協力できるところは協力していきたい。

委員) 今、土肥は人数が少ないが、海あり山ありということで土肥方式でやると思う。今後は中伊豆方式、天城方式という形で進んでいくと思われる。

委員) ふるさと納税については財務課が取り扱っているが、窓口を産業振興協議会に移したほうがいいのではないか。品ぞろえも、こちらの方が揃えやすい。先ほどふるさと納税は額の3割は返礼金と聞いたが、そのあたりはどうなっているのか教えていただきたい。

事務局) 昨年と今年当初は約4割の返礼率で始めていたが、国、県の指導により秋からはほぼ3割で実施している。伊豆市は返礼品の数が多いことから、産業振興協議会と協力しながら、返礼品の掘り起しをお願いできないかという方向で検討している。窓口については、納税者とのやりとりやクレーム処理があり、そういう事務的なことまで協議会に任せるのは難しいと思う。

委員) 各市町とおなじ取組であったら、伊豆市のほうが良いものを開発していただきたい。西伊豆町は昨年10億となっている。総務省の指導で3割以内のということでどうなるかわからないが、西伊豆町は町であり伊豆市は市であるから返礼品の品目もあると思う。もう少し民間的な考えで返礼品を考えていただきたい。

委員) 今回の審議会では伊豆市の設計図を皆さんと作ってきたような感覚

でいる。

教育振興審議会では全ての世代のみなさんが伊豆市に住んでよかったと思えるような方向性を持っていかなければならないと思っているが、どうしても伊豆の国市と比べると不利な部分もある。公共共通や地理的条件で近隣市町に比べ弱い部分がある。それでも伊豆市のこの学校に通わせたいと思ってもらえる学校づくりを進めていきたい。

今後魅力を感じていただけるような市になってもらいたく、観光、産業、福祉とか様々な部門のみなさんが連携して、情報を共有していかないとバラバラになってしまって、結局お金をかけた割に粗末なものになっていくと思うので、連携を取りながら伊豆市をつくっていったらいいと思う。

また市民一人一人が伊豆市がどうなるのかということに対し、アンテナを高くしてもらい、伊豆市を良くする方向に進めてもらうとありがたい。

委員) 皆さんの意見に対する計画への反映については、私のほうに一任いただくということで、審議会としてはこの改定案ということによろしいか。

委員全員) 異議なし。

【議事(2)に関する質問・意見等】

委員) 答申書について、細かい字句等の修正があればそれは修正させていただくということで、私のほうに一任させていただければ助かる。そして市長のほうに答申書を提出しようと考えている。

委員) 健康長寿の面から高齢者の方に働いてい頂きたいことを進めているが、ここに若者や女性の就労だけでなく、高齢者の就労について記述を加えることは可能なのか。

委員) 総力戦ということであるため、付け加えさせていただきたいと思うが、事務局の考えはどうか。

事務局) 高齢者も総力戦という話がありましたので、最終的には会長と調整させていただく。

4. その他

○今後の予定についての説明

- ・総合計画の改定案を2月9日に遠藤会長、植松副会長の出席のもと、市長に答申する。
- ・3月議会に上程し、議決後改定案の趣旨がわかるダイジェスト版を作成し、市民に配布する。

5. 副市長挨拶

6. 閉会